

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2006-164054

(43)Date of publication of application : 22.06.2006

(51)Int.Cl.

G06Q 50/00 (2006.01)

B65G 61/00 (2006.01)

(21)Application number : 2004-357008

(71)Applicant : TOSHIBA TEC CORP

(22)Date of filing : 09.12.2004

(72)Inventor : WATANABE MITSUKO

(54) INVENTORY DATA PROCESSOR AND INVENTORY DATA PROCESSING PROGRAM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent redo of inventory determination operation by enabling checking of existence of articles failed to carry out inventory execution before inventory determination operation.

SOLUTION: An inventory data processor comprises: a single item master file in which a department is set corresponding to a single item code of each article; an inventory input data file which accumulates and stores the undetermined article inventory data; an inventory determination data file which accumulates and stores the inventory data of already determined articles. The counting of the number of single items of the articles belonging to the department is carried out for every department with reference to data of the single item

master file. The counting of the number of single items of already determined inventory of the articles belonging to the department is carried out for every department with reference to data of inventory determination data file. The counting of the number of single items of already inputted article inventory data for the articles belonging to the department is carried out by department with reference to the data of an inventory input data file. The number of single items of non-executed inventory is computed for every department by subtracting the single item number of executed inventory and the inventory input single item number from the master single item number. The single item number of the non-executed inventory for every department is output.



【特許請求の範囲】

【請求項1】

棚卸が行われた商品の単品コード、棚卸数量等の商品棚卸データを取り込み確定させる棚卸データ処理装置において、

各商品の単品コードに対応してその商品が属する部門が設定された単品マスタファイルと、

未確定の前記商品棚卸データを蓄積保存する棚卸入力データファイルと、

確定済の前記商品棚卸データを蓄積保存する棚卸確定データファイルと、

前記各商品を分類する部門別にその部門に属する商品の単品数を前記単品マスタファイルのデータを参照して計数するマスタ単品数計数手段と、

前記部門別にその部門に属する商品で棚卸確定済の単品数を前記棚卸確定データファイルのデータを参照して計数する棚卸済単品数計数手段と、

前記部門別にその部門に属する商品で商品棚卸データ入力済の単品数を前記棚卸入力データファイルのデータを参照して計数する棚卸入力単品数計数手段と、

前記部門別に前記棚卸部門単品数計数手段により算出されたマスタ単品数から前記棚卸済単品数計数手段により算出された棚卸済単品数と前記棚卸入力単品数計数手段により算出された棚卸入力単品数とを減算して未棚卸単品数を算出する未棚卸単品数算出手段と、

この未棚卸単品数算出手段により算出された部門別の未棚卸単品数を出力する出力手段と、

を具備したことを特徴とする棚卸データ処理装置。

【請求項2】

商品棚卸データの確定を宣言する確定宣言手段と、

この確定宣言手段により前記商品棚卸データの確定が宣言されると、前記棚卸入力データファイルに保存された未確定の商品棚卸データを前記棚卸確定データファイルに登録して確定させる確定処理手段とをさらに具備し、

前記確定宣言手段は、前記出力手段による部門別未確定単品数の出力後に有効となることを特徴とする請求項1記載の棚卸データ処理装置。

【請求項3】

表示装置をさらに具備し、

前記出力手段は、部門別未棚卸単品数の一覧表を前記表示装置に表示出力することを特徴とする請求項2記載の棚卸データ処理装置。

【請求項4】

前記表示装置に表示出力された部門別未棚卸単品数一覧表の画面に、商品棚卸データを確定させるか否かを選択するためのボタンを表示させたことを特徴とする請求項3記載の棚卸データ処理装置。

【請求項5】

各商品の単品コードに対応してその商品が属する部門が設定された単品マスタファイルと、棚卸が行われた商品の単品コード、棚卸数量等の商品棚卸データのうち未確定の前記商品棚卸データを蓄積保存する棚卸入力データファイルと、前記商品棚卸データのうち確定済の前記商品棚卸データを蓄積保存する棚卸確定データファイルとをアクセス可能なコンピュータと、

前記各商品を分類する部門別にその部門に属する商品の単品数を前記単品マスタファイルのデータを参照して計数する機能と、

前記部門別にその部門に属する商品で棚卸確定済の単品数を前記棚卸確定データファイルのデータを参照して計数する機能と、

前記部門別にその部門に属する商品で商品棚卸データ入力済の単品数を前記棚卸入力データファイルのデータを参照して計数する機能と、

前記部門別に算出されたマスタ単品数から棚卸済単品数と棚卸入力単品数とを減算して未棚卸単品数を算出する機能と、

この機能により算出された部門別の未棚卸単品数を出力する機能と、

【発明の詳細な説明】卸データ処理プログラム。

【技術分野】

【0001】

本発明は、商品棚卸データを確定させる棚卸データ処理装置、及びコンピュータを上記棚卸データ処理装置として機能させるための棚卸データ処理プログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

スーパーマーケット等の商店では、例えば月末に各商品の在庫数量を調べ、商品毎にその月の在庫数量と仕入数量と売上数量とから損失の有無等をチェックする、いわゆる棚卸作業を定期的に行う必要がある。

【0003】

この棚卸作業を効率よく進めるために、従来、ハンディターミナル等に設けられたスキヤナで在庫商品の単品コード（バーコード）をスキヤニングすることにより、その単品コードによって特定される商品の在庫数量が1ずつ加算されるように構成して、商品別の在庫数量を簡単に集計できるようにした技術が知られていた（例えば、特許文献1参照）。

【0004】

ところで、ハンディターミナル等の入力端末を用いて入力された商品棚卸データは、例えばPOS（Point Of Sales）システムの上位サーバであるストアコントローラに送られる。そして、ストアコントローラにおいて棚卸確定操作がなされると、棚卸実行日の情報とともにデータベースに保管される。

【0005】

一方、ストアコントローラのデータベースには、各商品の仕入数量や売上数量等も計数管理されている。そして、ストアコントローラにおいて例えば年月度を指定して棚卸伝票の出力を指令すると、その年月度に棚卸が実行された商品の商品別在庫数量と、当該商品の前回棚卸時の在庫数量と、前回棚卸時から今回棚卸時までの期間内の総仕入数量及び総売上数量とを一望で示す棚卸帳票が作成されて、表示または印字出力される。この棚卸帳票を精査することにより、店舗管理者は、各商品の損失有無等をチェックすることができる。

【特許文献1】特開2003-44939号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら従来は、棚卸確定操作が行われた後で棚卸が実行された商品の損失有無はチェックできるものの、棚卸を実行し忘れた商品の有無を、確定操作前にチェックすることはできなかった。このため、確定操作をした後で棚卸を実行し忘れた商品があることがわかり、その商品の棚卸データを入力後、再度確定操作をしなければならないという煩雑さがあった。

【0007】

本発明はこのような事情に基づいてなされたもので、その目的とするところは、棚卸確定操作の前に棚卸実行し忘れた商品有無を確認することができ、棚卸確定操作にやり直しを未然に防止できる棚卸データ処理装置を提供しようとするものである。

【0008】

また本発明は、棚卸確定操作の前に棚卸実行し忘れた商品有無を確認でき、棚卸確定操作にやり直しを未然に防止できる棚卸データ処理機能をコンピュータ上で実現可能な棚卸データ処理プログラムを提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明の棚卸データ処理装置は、棚卸が行われた商品の単品コード、棚卸数量等の商品棚卸データを取り込み確定させるものであって、各商品の単品コードに対応してその商品が

属する部門が設定された単品マスタファイルと、未確定の商品棚卸データを蓄積保存する棚卸入力データファイルと、確定済の商品棚卸データを蓄積保存する棚卸確定データファイルとを備えている。また、各商品を分類する部門別にその部門に属する商品の単品数を単品マスタファイルのデータを参照して計数するマスタ単品数計数手段、部門別にその部門に属する商品で棚卸確定済の単品数を棚卸確定データファイルのデータを参照して計数する棚卸済単品数計数手段、部門別にその部門に属する商品で商品棚卸データ入力済の単品数を棚卸入力データファイルのデータを参照して計数する棚卸入力単品数計数手段、及び、部門別にマスタ単品数から棚卸済単品数と棚卸入力単品数とを減算して未棚卸単品数を算出する未棚卸単品数算出手段を備え、この未棚卸単品数算出手段により算出された部門別の未棚卸単品数を出力することで、棚卸確定操作の前に棚卸実行し忘れの商品有無を確認できるようにしたものである。

【0010】

また、本発明の棚卸データ処理プログラムは、各商品の単品コードに対応してその商品が属する部門が設定された単品マスタファイルと、棚卸が行われた商品の単品コード、棚卸数量等の商品棚卸データのうち未確定の商品棚卸データを蓄積保存する棚卸入力データファイルと、商品棚卸データのうち確定済の商品棚卸データを蓄積保存する棚卸確定データファイルとをアクセス可能なコンピュータに、各商品を分類する部門別にその部門に属する商品の単品数を単品マスタファイルのデータを参照して計数する機能と、部門別にその部門に属する商品で棚卸確定済の単品数を棚卸確定データファイルのデータを参照して計数する機能と、部門別にその部門に属する商品で商品棚卸データ入力済の単品数を棚卸入力データファイルのデータを参照して計数する機能と、部門別に算出されたマスタ単品数から棚卸済単品数と棚卸入力単品数とを減算して未棚卸単品数を算出する機能と、この機能により算出された部門別の未棚卸単品数を出力する機能とを実現させるものである。

【発明の効果】

【0011】

かかる手段を講じた本発明によれば、棚卸確定操作の前に棚卸実行し忘れの商品有無を確認することができ、棚卸確定操作にやり直しを未然に防止できる棚卸データ処理装置を提供できる。

【0012】

また、棚卸確定操作の前に棚卸実行し忘れの商品有無を確認でき、棚卸確定操作にやり直しを未然に防止できる棚卸データ処理機能をコンピュータ上で実現可能な棚卸データ処理プログラムを提供できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、本発明を実施するための最良の形態を、図面を用いて説明する。

なお、この実施の形態は、POSシステムの上位サーバであるストアコントローラとして機能するコンピュータに、本発明に係わる棚卸データ処理プログラムをインストールすることによって、当該コンピュータを棚卸データ処理装置として機能させる場合である。

【0014】

図1は本実施の形態における棚卸データ処理システムの要部構成を示すブロック図である。このシステムは、ストアコントローラとして機能するコンピュータの本体10と、このコンピュータ本体10に接続されたキーボード、マウス等の操作入力部20と、同じくコンピュータ本体10に接続された液晶ディスプレイ、CRTディスプレイ等の表示部30と、商品販売データや商品仕入れデータ等の入力端末であるPOSターミナル40と、商品棚卸データの入力端末であるハンディターミナル50とから構成されている。

【0015】

コンピュータ本体10は、本発明に係わる棚卸データ処理機能を実現するために、通信インターフェイス部11、演算処理部12、プログラム記憶部13、データ記憶部14、入力・表示制御部15及び表示バッファ16等を備えている。

【0016】

通信インターフェイス部11は、通信回線41を介して接続されるPOSターミナル40から販売登録された商品の単品コード、販売点数等の商品販売データを取込む機能を有している。また、通信回線51を介して接続されるハンディターミナル50から、棚卸が行われた商品の単品コード、棚卸数量等の商品棚卸データを取込む機能を有している。通信インターフェイス部11は、例えばLANボードで構成されている。

【0017】

演算処理部12は、プログラム記憶部13に記憶されたプログラムに基づいて各種の演算処理を行うもので、その演算処理の際にデータ記憶部14に記憶されているデータファイルにアクセス可能である。演算処理部12は、例えばCPUで構成されている。

【0018】

プログラム記憶部13には、本発明に係わる棚卸データ処理プログラムが記憶されている。棚卸データ処理プログラムは、CD-ROM、フレキシブルディスク等のコンピュータ読み取り可能な記録媒体にその実体が記録されており、コンピュータ本体10に設けられた媒体読み取り装置で読取らせることによって、プログラム記憶部13に書き込まれる。あるいは、伝送媒体である通信回線41、51を経由してその実体がコンピュータ本体10にダウンロードされ、プログラム記憶部13に書き込まれる。プログラム記憶部13は、例えばROM、EPROM、HDD装置等で構成されている。

【0019】

入力・表示制御部15は、操作入力部20を介して入力されるデータを取込み、演算処理部12に与える機能と、表示バッファ16から表示データを読み出して表示部30に表示させる機能とを有している。入力・表示制御部15は、例えば入出力インターフェイスとドライバで構成されている。

【0020】

データ記憶部14は、部門マスタファイル61、単品マスタファイル62、棚卸入力データファイル63及び棚卸確定データファイル64等のデータファイルを記憶する機能を有している。データ記憶部14は、例えばHDD装置、メモ리카ード等の不揮発性記憶装置で構成されている。

【0021】

部門マスタファイル61は、図2に示すように、各商品を分類する部門コード別に、部門名称と未棚卸処理区分コードとを記憶するデータファイルである。ここで、未棚卸処理区分コード=1は、当該部門に属する商品で棚卸がされなかった商品の棚卸数量を“0”で確定する処理に対応する。未棚卸処理区分コード=0は、当該部門に属する商品で棚卸がされなかった商品の棚卸数量を、前回棚卸数量に仕入数量を加算した値から売上数量を減算した帳簿上計算値で確定する処理に対応する。未棚卸処理区分コード=2は、当該部門に属する商品で棚卸がされなかった商品の棚卸数量を、後述する未棚卸単品数が“0”の場合は“0”で確定し、“0”以外の場合には帳簿上計算値で確定する処理に対応する。

【0022】

単品マスタファイル62は、図3に示すように、商品毎に設定される各商品の単品コードに対応して、その商品が属する部門コード及び単品名称と、棚卸確定数量、仕入数量及び売上数量とを記憶するデータファイルである。棚卸確定数量は、最新の棚卸確定処理で商品毎に確定された棚卸数量である。仕入数量は、最新の棚卸確定処理以後における商品別の総仕入数量であって、操作入力部20からの操作入力によりデータ記憶部14に蓄積されているデータに基づいて更新される。売上数量は、最新の棚卸確定処理以後における商品別の総売上数量であって、POSターミナル40から取込まれる商品販売データに基づいて更新される。

【0023】

棚卸入力データファイル63は、図4に示すように、棚卸実行日、単品コード、部門コード、ケース数量、バラ数量及び入り数の各項目からなる棚卸入力データを蓄積記憶するデータファイルである。ケース数量、バラ数量及び入り数は棚卸数量であって、ハンディ

ターミナル50から取込まれる商品棚卸データに含まれる。

【0024】

棚卸確定データファイル64は、図5に示すように、単品コード、棚卸実行日及び棚卸数の各項目からなる棚卸確定データを蓄積記憶するデータファイルである。

【0025】

しかして本実施の形態においては、ハンディターミナル50で棚卸が行われた商品の単品コード、棚卸数量等の商品棚卸データが入力され、この商品棚卸データが通信回線51を介してコンピュータ本体10に取込まれると、演算処理部12は、その未確定の商品棚卸データから棚卸入力データを作成し、棚卸入力データファイル63に追加格納する。

【0026】

また、POSターミナル40で登録処理された商品仕入れデータや商品販売データが通信回線41を介してコンピュータ本体10に取込まれると、演算処理部12は、この商品仕入れデータや商品販売データに基づいて単品マスタファイル62の仕入数量及び売上数量を更新する。

【0027】

また、操作入力部20の操作入力により棚卸確定業務の実行が指令されると、演算処理部12は、プログラム記憶部13に記憶された棚卸データ処理プログラムを起動して、図6の流れ図に示す手順の処理を実行するものとなっている。

【0028】

先ず、演算処理部12は、ST（ステップ）1として表示部30に棚卸確定条件画面を表示させて、実行年月度及び棚卸部門の棚卸確定条件が入力されるのを待機する。そして、操作入力部20の操作入力により棚卸確定条件が入力されたならば、演算処理部12は、ST2として棚卸確定条件である棚卸部門1つを選択する。そして、この選択部門に対してST3～ST14の処理を実行する。

【0029】

すなわち、ST3では部門マスタファイル61を検索して、当該選択部門の部門コード、部門名称及び未棚卸処理区分コードを取得する。ST4では、予め用意されている単品数カウンタA、棚卸済数カウンタB及び棚卸単品数カウンタCをいずれも“0”にリセットする。ST5では、単品マスタファイル62を先頭レコードから順に検索して、当該選択部門に属する単品コードを探す。そして、該当する単品コードを検出したならば、演算処理部12は、ST8として単品数カウンタAを“1”だけカウントアップする（マスタ単品数計数手段）。

【0030】

また、ST9として棚卸確定データファイル64を先頭レコードから順に検索して、棚卸確定条件の実行年月度を棚卸実行日とするもので単品コードが該当単品コードと一致する棚卸確定データが格納されているか否かを判断する。そして格納されている場合には、ST10として棚卸済数カウンタBを“1”だけカウントアップする（棚卸済単品数計数手段）。

【0031】

さらに、ST11として棚卸入力データファイル63を先頭レコードから順に検索して、棚卸確定条件の実行年月度を棚卸実行日とするもので単品コードが該当単品コードと一致する棚卸入力データが格納されているか否かを判断する。そして格納されている場合には、ST12として棚卸単品数カウンタCを“1”だけカウントアップする（棚卸入力単品数計数手段）。

【0032】

単品マスタファイル62を最終レコードまで検索し終えたならば、演算処理部12は、ST13として下記（1）式により未棚卸単品数Dを算出する（未棚卸単品数算出手段）。

【0033】

$$D = A - (B + C) \quad \dots (1)$$

なお、(1)式においてAは単品数カウンタの値であり、Bは棚卸済数カウンタの値であり、Cは棚卸単品数カウンタの値である。

【0034】

しかる後、演算処理部12は、ST14として選択部門の部門コード及び部門名称と、単品数カウンタA、棚卸済数カウンタB及び棚卸単品数カウンタCの各値と、これらのカウンタ値から算出された未棚卸単品数Dとを表示バッファ16に格納する。

【0035】

演算処理部12は、棚卸確定条件である棚卸部門を1つ選択する毎に、その選択部門に対してST3～ST14の各処理を繰返し実行する。そして、ST15として棚卸確定条件で指定された全ての棚卸部門についてST3～ST14の各処理を実行したならば、演算処理部12は、ST16として表示バッファ16のデータに基づいて棚卸確定確認画面を表示部30に表示出力させる(出力手段)。

【0036】

この棚卸確定確認画面の一表示例を図7に示す。図示するように、棚卸確定確認画面70には、棚卸確定条件で指定された部門別に、マスタ単品数A、棚卸済単品数B、棚卸入力単品数C及び未棚卸単品数Dと未棚卸処理区分コードとを併記した一覧表71が表示されている。また、商品棚卸データを確定させることを宣言する確定宣言手段としての実行ボタン72と、商品棚卸データの確定を取り消すキャンセルボタン73が表示されている。

【0037】

棚卸確定確認画面を表示出力後、演算処理部12は、ST17及びST18として上記キャンセルボタン73及び実行ボタン72のいずれかが操作されるのを待機する。そして、操作入力部20の操作入力により実行ボタン72が操作されたことを検知した場合には、演算処理部12は、ST19として棚卸確定処理を実行する。すなわち、棚卸入力データファイル63に保存されている全ての棚卸入力データを棚卸確定データに変換して棚卸確定データファイル64に追加登録する。そして、棚卸入力データファイル63のデータをクリアする。また、単品マスタファイル62の該当単品コードに対応する棚卸確定数を今回の棚卸数に更新する(確定処理手段)。

【0038】

しかる後、演算処理部12は、ST20として表示部30から棚卸確定確認画面70を消去したならば、今回の棚卸確定業務を終了する。

【0039】

これに対し、棚卸確定確認画面70で実行ボタン72でなくキャンセルボタン73が操作された場合には、演算処理部12は、棚卸確定処理を実行することなく表示部30から棚卸確定確認画面70を消去して、今回の棚卸確定業務を終了する。

【0040】

このように構成された本実施の形態においては、コンピュータ本体10上で棚卸データ処理プログラムを起動させることにより、棚卸確定条件の入力が可能となる。ここで、実行年年度(例えば2004年11月度)と棚卸部門(例えば部門10、20、30、40)の棚卸確定条件を入力すると、部門マスタファイル61、単品マスタファイル62、棚卸入力データファイル63及び棚卸確定データファイル64に記憶されている各データにより、例えば図7に示される棚卸確定確認画面70が表示部30に表示される。

【0041】

この棚卸確定確認画面70に表示された部門別のマスタ単品数A、棚卸済単品数B、棚卸入力単品数C、未棚卸単品数D及び未棚卸処理区分により、オペレータは次のことがわかる。すなわち、マスタ単品数Aから各部門にそれぞれ属する商品の単品数がわかる。棚卸済単品数Bから部門毎にその部門に属する商品の中で実行年年度に棚卸が既に確定されている商品の単品数がわかる。棚卸入力単品数Cから部門毎にその部門に属する商品の中で実行年年度に棚卸が行われて商品棚卸データが入力済である商品の単品数がわかる。未棚卸単品数Dから部門毎にその部門に属する商品の中で実行年年度に棚卸がまだ行われて

いない商品の単品数がわかる。未棚卸処理区分から部門毎にその部門に属する商品のうち棚卸が行われていない商品に対しての確定方法がわかる。

【0042】

そこでオペレータは、未棚卸単品数Dが“0”でない部門について、その部門に属する商品のうち未棚卸単品数D分の商品の棚卸がまだ行われていないことを容易に知り得る。その結果、棚卸を確定させない場合には、例えば操作入力部20のマウスを操作して、画面70のキャンセルボタン73を操作すればよい。

【0043】

また、仮に全ての棚卸部門の未棚卸単品数Dが“0”であった場合には、棚卸実行し忘れの商品がないと容易に判断できる。そしてその場合には、画面70の実行ボタン72を操作することによって、棚卸確定処理が実行される。

【0044】

このように本実施の形態によれば、棚卸確定操作の前に棚卸実行し忘れの商品有無を確認できるので、棚卸確定操作にやり直しを未然に防ぐことができる。また、棚卸確定確認画面70から棚卸実行し忘れの商品有無を確認後、その画面70に表示されている実行ボタン72を操作することで棚卸確定処理を実行できるので、操作性が良好である。

【0045】

なお、この発明は前記実施形態そのままに限定されるものではなく、実施段階ではその要旨を逸脱しない範囲で構成要素を変形して具体化できる。

【0046】

例えば前記実施の形態では、1つの店舗での棚卸業務で発生した棚卸データの処理装置として本発明を説明したが、複数の店舗のストアコントローラをオンラインで接続してなる上位のサーバ、例えば本部サーバに本発明の機能を持たせて、複数の店舗での棚卸業務で発生した棚卸データを一元的に処理する装置としてもよい。この場合、棚卸確定条件として1つの店舗を指定する店舗コードを入力するように構成することで可能となる。

【0047】

また、前記実施の形態では棚卸確定確認画面70に未棚卸単品数Dだけでなくマスタ単品数A、棚卸済単品数B、棚卸入力単品数C等も表示させたが、少なくとも未棚卸単品数Dを表示させることで本発明の効果を奏することはできる。また、出力手段は表示手段に限定されるものではなく、例えばコンピュータ本体10にプリンタを接続して印字出力させるようにしてもよい。

【0048】

また、売上数量の取得方法は、POSターミナル40から取得する方法だけに限定されるものではなく、コンピュータ本体10の操作入力部20の操作により入力されたデータをデータ記憶部14で保持するようにしてもよい。

【0049】

また、棚卸数量の登録方法もハンディターミナル50からの登録に限定されるものではなく、コンピュータ本体10の操作入力部20の操作により入力された棚卸入力データを棚卸入力データファイル63で保持するようにしてもよい。

【0050】

この他、前記実施形態に開示されている複数の構成要素の適宜な組合せにより種々の発明を形成できる。例えば、実施形態に示される全構成要素から幾つかの構成要素を削除してもよい。さらに、異なる実施形態に亘る構成要素を組合わせてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0051】

【図1】本発明の一実施の形態における棚卸データ処理システムの要部構成を示すブロック図。

【図2】図1における部門マスタファイルのデータ構造例を示す模式図。

【図3】図1における単品マスタファイルのデータ構造例を示す模式図。

【図4】図1における棚卸入力データファイルのデータ構造例を示す模式図。

【図5】図1における棚卸確定データファイルのデータ構造例を示す模式図。

【図6】図1における演算処理部の棚卸データ処理プログラム起動時における処理手順を示す流れ図。

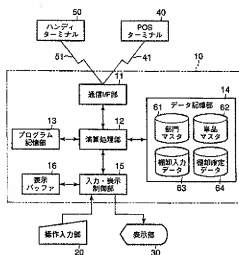
【図7】棚卸確定確認画面の一例を示す平面図。

【符号の説明】

【0052】

10…コンピュータ本体、11…通信インターフェイス部、12…演算処理部、13…プログラム記憶部、14…データ記憶部、15…入力・表示制御部、16…表示バッファ、20…操作入力部、30…表示部、40…POSターミナル、50…ハンディターミナル、61…部門マスタファイル、62…単品マスタファイル、63…棚卸入力データファイル、64…棚卸確定データファイル、70…棚卸確定確認画面。

【図1】



【図2】

部門コード	部門名称	求積部処理区分
10	部門10	1
20	部門20	0
30	部門30	2
40	部門40	0
...

61

【図3】

単品コード	部門コード	単品名称	棚卸確定数	仕入れ数	売上数
0001	10	AAAAA	20	0	0
0002	10	BBBBB	0	0	0
0003	30	CCCCC	25	0	0
0004	20	DDDDD	20	0	0
0005	10	EEEE	30	0	0
0006	40	FFFFF	10	0	0
0007	20	GGGGG	50	0	0
0008	30	HHHHH	40	0	0
...

62

【図4】

No	機印実行日	商品コード	部門コード	ケース数量	パック数量	入り数
1	20041130	0001	10	5	2	24
2	20041130	0002	10	5	3	24
3	20041130	0003	30	1	1	24
4	20041130	0004	20	0	20	1
5	20041130	0005	10	2	10	12
6	20041130	0006	40	2	3	24
7	20041130	0007	20	0	8	2

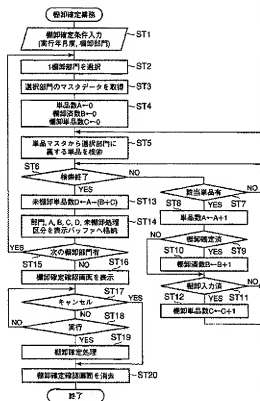
63

【図5】

商品コード	機印実行日	機印数
0001	20041031	20
0002	20041031	0
0003	20041031	25
0004	20041031	20
0005	20041031	30
0006	20041031	10
0007	20041031	50

64

【図6】



【図7】

機印部門マスタ

部門	マスタ単品数	機印添数	機印単品数	未機印単品数	未機印機印数
10: 部門10	45	0	45	0	1
20: 部門20	273	292	13	0	0
30: 部門30	571	0	0	0	571
40: 部門40	857	0	0	0	857

72 実行 2004年11月 73 実行 2004年11月 71

(74)代理人 100084618

弁理士 村松 貞男

(74)代理人 100092196

弁理士 橋本 良郎

(72)発明者 渡邊 晃子

静岡県三島市文教町1-4843-1 テックインフォメーションシステムズ株式会社内